

災害復興まちづくりにおけるリスクコミュニケーション手法の開発と活用 Development of risk communication method on the town reconstruction planning

李 泰榮^{1*}, 長坂 俊成¹, 須永 洋平¹

YI, Taiyoung^{1*}, NAGASAKA, Toshinari¹, SUNAGA, Yohei¹

¹ 独立行政法人防災科学技術研究所

¹ National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

筆者らは、東日本大震災被災地である岩手県大船渡市を対象に、同市の災害復興局と協力のもと、eコミュニティ・プラットフォームを活用した住民参加型のリスクコミュニケーション手法の開発と、当手法の実施のために各種地図情報の作成・印刷が可能なツールとして復興地図センターを設置し、災害復興に向けたまちづくりを支援している。

大船渡市では、復興計画や復興事業の推進に向け、個別地区や地域コミュニティ単位の復興に向けた説明会や住民会合が行われている。しかし、国・県の個別の事業進捗状況により災害リスク情報や支援メニューの情報が逐次更新されるため、個人または地域コミュニティとして地域復興に関する情報収集や生活再建の場を判断するのが難しい状況である。さらに、すでに少子高齢化が進んでいる地域実情を勘案すると、今後の10年後、20年後、30年後、個人、世帯、コミュニティ、さらには地域まで、被災地の中長期的な地域社会の情勢変化を考慮した地域再生及び生活再建の価値基準の明示が必要である。そのため、住民のリスクコミュニケーションを通じた、これらの価値基準とリスクのトレードオフ関係（便益関係）やリスク受容性に基づく復興まちづくりが重要となる。

そこで、筆者らは、地域復興における中長期的な地域社会の脆弱性を考慮した住民参加のリスクコミュニケーション手法を開発し、eコミによる大船渡市復興支援サイト (<http://ofunato-city.ecom-plat.jp>) を立ち上げ、国、県、市の重点的な復興計画事業やその他の団体や民間からの保険・寄付金・支援制度などの各種補助制度を整理し情報提供するとともに、国、県、自治体などの行政や、大学、学会などの各種研究機関、さらには民間企業などが公開している白地図、被災前の航空写真、住宅地図に加え、震災に関連する被災後の航空写真、震度マップ、浸水被災マップ、土地利用方針図、浸水シミュレーション図などの様々な地図情報を提供し、住民自らが地域再建と生活再建を検討できるリスクコミュニケーションの取り組みを行っている。

とくに、当取り組みでは、地元のシステム企業、地元の若者で結成されたグループKOM（気仙を大いに盛り上げるの頭文字）、ほかの支援NPO等と協力し、「おおふなと夢商店街」（大船渡市の仮設商店街）内に「復興地図センター」（<http://311archives.jp>）を設置した。筆者らは、当センターを拠点に、市全体または個別地区の復興会合における地図活用ニーズに対し、大船渡市復興支援サイトから提供された各種地図の作成・印刷などの技術的なサポートを行っている。さらに、住民ワークショップや勉強会などの会合から出された事業手法や支援制度、行政への働きかけ手法など、復興まちづくりに関する住民の各種ニーズや課題を受け付、大船渡市復興支援サイト通して地域に不在しているまちづくりや防災の専門家の知見・助言・指導などを提供している。

キーワード: 被災地, 災害復興, まちづくり, 住民参加, リスクコミュニケーション

Keywords: stricken area, reconstruction, town planning, residents participation, risk communication